

座談会 東日本大震災・ 鍼灸治療ボランティアの現場から

3月11日に発生した東日本大震災の被災地へ鍼灸治療ボランティアとして、専門学校鍼灸学科卒業生の須賀清子さん・鳥山雅子さん、森ノ宮医療大学大学院生の高崎雷太さん・大月隆史さんは現地を訪れ、被災者の皆さんをケアしてられました。今号ではその活動について話し合っていました。（2011年7月14日 於：森ノ宮医療学園専門学校）

— まず、被災地に行かれるまでの経緯からお願いします。

高崎 実は、2004年の新潟中越沖地震でボランティアの経験があって、復興活動が長期になると、皆さん、肩こりや腰痛を訴えられていたのが記憶に残っていて、3月11日、津波に飲み込まれる気仙沼の映像を観て、鍼灸の資格を取ったばかりでも、被災地の皆さんをケアできるかもしれないと思ったのが始まりです。

大月 僕は高崎さんから声をかけられたのがきっかけで、現地に行くまでが約1ヵ月。まず、企画書「支援していただける皆様へ」を手に親戚から友人、知人まで一人ひとり支援のお願いに回りました。

高崎 いつもワイシャツを用意していて、いつでも着替えて、「お願いします。こういう趣旨で行ってきます」と。でも、聞かされるほうにとっては雲をつかむような話で、しかも僕たちは鍼灸師になりたてで実績も何もない…。

— 確かに、若葉マークですね。

大月 そうなんです。僕は本当に治療経験どころかカルテもそれほど書いたことがない。カルテも既製のものか、新たにボランティア用に作るか…そういったことからでした。

高崎 結局、患者さんを継続して診ていくために、そしてこの経験を生かすためにもカルテは重要なので、自分たちでモディファイしたものを作成しました。

大月 備品は自分たちで用意したものと、お借りしたものの、なかには現地で栃木県の鍼灸師の先生方が好意で買ってくださいたり、帰郷されるときに置いていってくれたり。シーツは全部、鍼灸学科第1期生のクラスメイトが実習で使っていたシーツを寄付してくれたものです。

清水 ああ、名前の入っているものですね。

— 須賀さんたちはかなり早い時期に行かれましたね。

須賀 震災後すぐにテレビで流れた映像を観て、何かできることは…と考えたら、すぐに“治療”に直結して、「もし行くことになったら行く？」と鍼灸師の友人知人に声をかけて、即「はい」と言ってくれたのが、鳥山さんでした。そこから動き出しましたね。

鳥山 私もちょうど自宅であの衝撃的な映像を一日中見ていて、これはただごとではない、こちらの気がどんどん落ちていくような感じだったので、翌3月12日に須賀さんから声がかかったとき、「これは自分が行く機会だ」と即答したのです。

— 行かれるまで具体的にはどういった活動を？

高崎 例えば、阪神・淡路大震災のとき地元の鍼灸師さんから「無料

でやってもらったら困る」と言われたとか、現地で活動している医療チームに挨拶もなく勝手に入って来てさっと消える輩がいてトラブルになったとか…いろいろ聞き、僕たちは、そういう周囲とのトラブルを全部クリアしようと、それなりの準備期間をかけました。

大月 大学内では、僕たちは院生なので、まずゼミの担任の山下仁先生にお話して、それから鍼灸学科の先生方に説明しました。それから宮城県知事に「こういう者が入りますので、よろしくお願いします」という連絡から、万が一の場合を考慮して保険に入って。

高崎 先生方に口添えをいただき、セイリンさんや釜屋もぐささん、日本特殊医科さん等から治療具関係のご支援をいただいたのは、ほんとうに感謝しています。

須賀 私たちもまず資金面がネックでしたね。「自分の治療院があって行けない。ただ日本赤十字にほんとお金を送るだけでは…と思っていた。だから寄付するわ」と言って寄付いただいた方もおられました。

鳥山 私たちも治療に使う鍼はセイリンさんに寄付していただき、知り合いのタオル屋さんからはタオル200枚、エステティシヤンの友人からは使い捨てショーツ、カフェをやっている女性からはお弁当を…。すごくありがたかったですね。

須賀 がっつりでなくて、「行かれへんから、その分やってきて」という気持ちで寄付金等をいただいているので、そこは絶対に無駄にせず、大事にしていかなければいけないと思っています。実際、1万円稼ごうと思ったら大変ですから、それが有効に使われていることを活動する側と同じに感じてもらわないと駄目だと思います。それで、帰ってきたら、支援者の方のお名前や支援の内容を報告書にして、行動する側もそれを支える方々も同じなのだとことを伝えるようにしました。

高崎 本当にそうですね。お金は必要ですが、寄付していただいた方々の気持ちももっと大切ですね。



（左から）清水尚道先生、須賀清子さん、鳥山雅子さん、高崎雷太さん、大月隆史さん